

中頭指導行政の基本方針
総括目標

最多・最大の最高を追求する中頭教育の創造

～地域に根ざし、共に子供の育ちを保障する、持続可能な潤いの「魅力ある学校」づくり～

育成をめざす資質・能力

- 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得
- 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成
- 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養

令和6年度の状況

【中頭地区特別支援学級数】

小 R4 422学級

R5 437学級

R6 438学級

(R4～16学級増)

中 R4 156学級

R5 159学級

R6 154学級

(R4～2学級増)

【巡回アドバイザー要請件数】

私立幼稚園・小学校(3件)

公立幼稚園・こども園(1件)

公立小学校(9件)

公立中学校(6件)

県立中学校・高等学校(5件)

「個が光る」中頭の教育を共に創る
～ 誰一人取り残されない学びの保障～

- 重点事項
- 1 「わったーわらびの学び」の保障
 - 2 教職員の資質・能力の向上をめざす組織づくりの推進
 - 3 カリキュラム・マネジメントを生かした自律的学校経営の推進

- 基本方針
- 1 全校体制による教育的支援
 - 2 実態把握(アセスメント)による一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実
 - 3 関係機関並びに校種間の連携強化

- 取組事項
- 1 特別支援教育体制
 - 2 教育的ニーズに応じた指導・支援
 - 3 家庭・地域・関係機関・校種間との連携
 - 4 RPDCA×3サイクルの推進(生徒指導・教育相談)
 - 5 教育環境整備

「わったーわらびの学び」の保障

児童生徒理解と一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実

特別支援学級の教育課程の充実

- 児童生徒の障害の状態や発達の段階及び特性を踏まえた特別の教育課程の編成
- 自立活動の実施

交流及び共同学習の充実

- 特別支援学級や特別支援学校の児童生徒と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習の推進
- 地域の人々と活動を共にする交流及び共同学習の推進

教育支援体制の充実

- 校内委員会の機能化
- 市町村教育支援委員会と連携した適切な対応
- 体験入学を恒常的に実施でききる体制づくり
- 通級による指導
- 切れ目ない支援のための校種間連携
- キャリアパスポートの活用

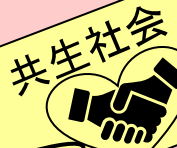
特別支援教育に関する専門性

- 教職員への理解啓発と専門性の向上
- 「校内教育支援の手引き」の活用(☆全職員)
- 特別支援学級の場や担当者の専門性の活用

☆校内研修等を通した職員間の共通理解・共通実践

- 児童生徒の生活や学習上の困難さへの気づき(実態把握)
- 担任による個別対応(継続指導)
- 生徒指導4つのポイントを生かした授業
- 支持的な風土をつくる学校・学級経営
- 見取る視点・観点を共有した共通実践(個に応じた対応)
- ICT活用による特別支援教育の質の向上
- 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・活用
- ・見直し・引き継ぎ
- 合理的配慮(教育的ニーズに応じた指導)

- 地域の人々との活動を共にする交流及び共同学習の推進
- 児童デイサービス
- 保育所等訪問支援事業
- トライアングルプロジェクトの推進(教育・福祉・家庭の一層の連携)



関係機関(支援体制)

- 市町村教育委員会
- ・教育相談室(適応指導教室)
- ・特別支援教育支援員、SSW
- 中頭教育事務所
- ・地区特別支援教育運営連絡協議会
- ・巡回アドバイザー
- ・専門家チーム
- 県立学校教育課特別支援教育室
- 県立総合教育センター特別支援教育班
- 医療・福祉・保健・労働
- ・沖縄県発達障害者支援センター「がじゅま〜る」
- ・中部福祉事務所

- ・切れ目ない支援
- ・校種間連携
- ・インクルーシブ教育システム

- 規則正しい生活リズムの確立
- スマホ等の利用ルールづくり、ファミリー読書の推進
- 学習習慣の確立
- 体験的な活動
- 新サポートノートえいぶるの活用

教職員の資質・能力の向上をめざす組織づくりの推進

カリキュラム・マネジメントを生かした自律的学校経営の推進

各学校の
取り組みを

しっかり

じっくり

たっぶり

をキーワードに

問い



対話

取り組みの共有・参考は

「わくどき なかがみ ポータルサイト」

